



MERCURIC DANCE

本設計は「目の空間性」に関する実験である。次に紹介する媒体の内容伝達の3つの段階に関する考え方はStephen Shoreの『写真の本義 (The Nature of Photography, 1996)』から得たものである。彼は写像レベル・描写レベル・メンタルレベルという3つのレベルを一枚の写真が脳内にイメージを構築するプロセス、あるいはすでにある脳内のイメージ（メンタルキザル）が撮影行為に反映されるプロセスとして提示しているが、私はそのプロセスが音楽と建築の対峙・都市にも通じていると考えた。更に、この発想を発展していく中で、建築の「空間」と音楽の「静寂」には密接な関係のあることに気づき、それは設計の際に最も意識した要素である。

「マーキュリック・ダンス」は、1985 年丹波の山中と東京のスタジオで録音された結野純子の音楽アルバムであり、本設計ではその中で一部の音楽空間の要素として扱うことにした。その増加は、水鏡の躍動感と大団円の拍撃を音楽的・ミニマルに表現した音の響きが設計プロセスに面していると考えたからである。

本設計では、音楽から受得された建築そのものよりも空間化のプロセスを用いて音と空間の関係、特に「静寂」と「空間」の関係性を示すことに重点を置いている。その在り、建築に建築や材料を定めます。様々な静寂（音）の相互作用を空間（区切り）で再現することに力を入れた。

製作時の流れ

写真

音楽

建築

The Physical Level
物理段階

印画紙に刷り込まれた像
モニターに表示された像

記録装置（CD、mp3、楽譜など）
出力装置（スピーカー、楽器）

記録装置（図面、模型など）
実物

The Depictive Level
描写・表現段階

平面化・構図・タイミング・フォーカスによって決定される描写のレベル

音色・旋律・リズム
↔ 静寂

材料・構造
↔ 空間

歌詞、曲名、アルバム名、曲順

概要、レイアウト

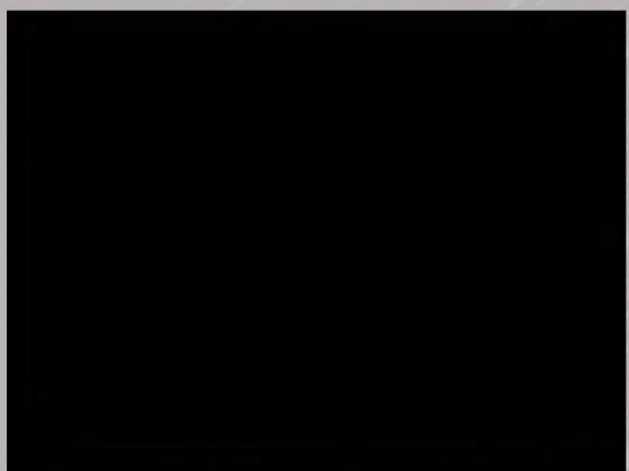
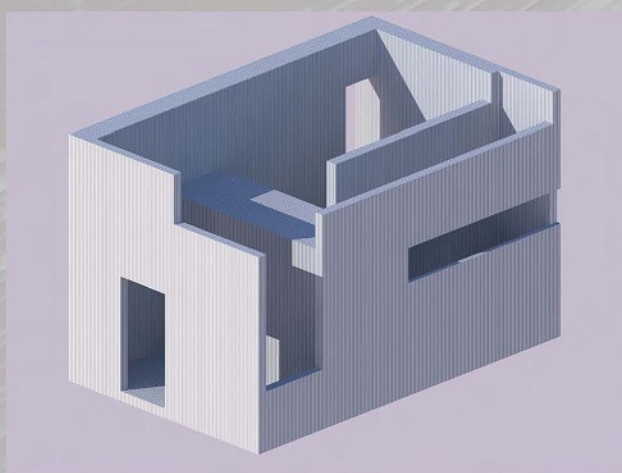
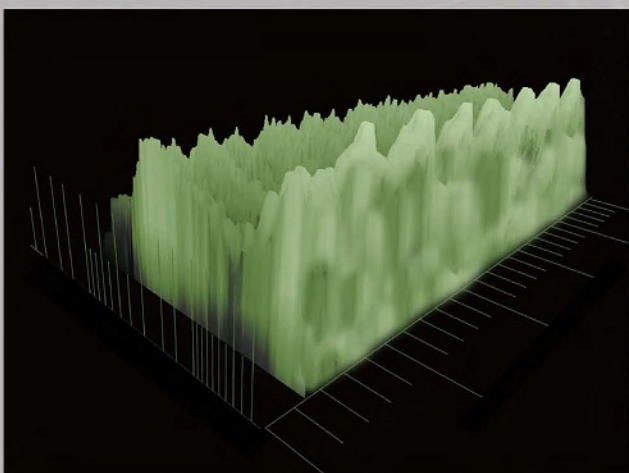
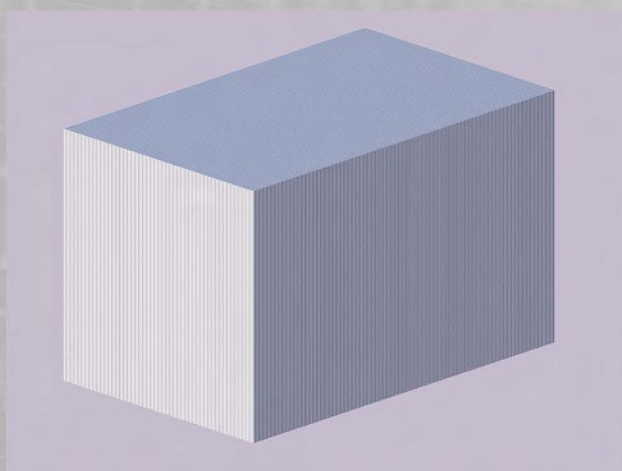
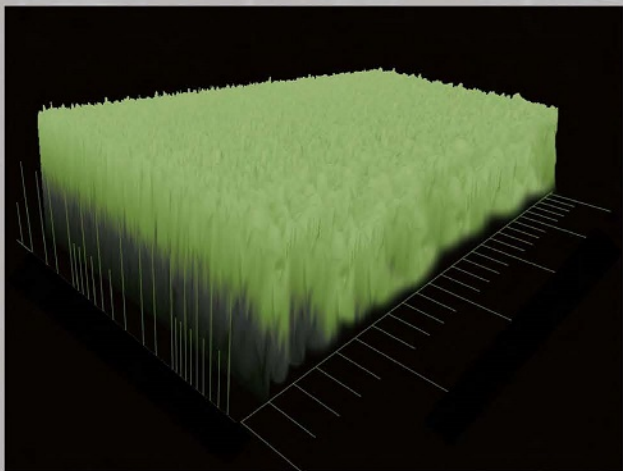
The Mental Level
知能段階

描写段階に内包された意味・イメージ・メッセージ、用途・機能
他の解釈の余地

メンタル・モデル：製作時にもつ「狙い」

利用・鑑賞時の流れ

音楽は音で、建築は物質でできている同時に、間を含まないと成り立たない。

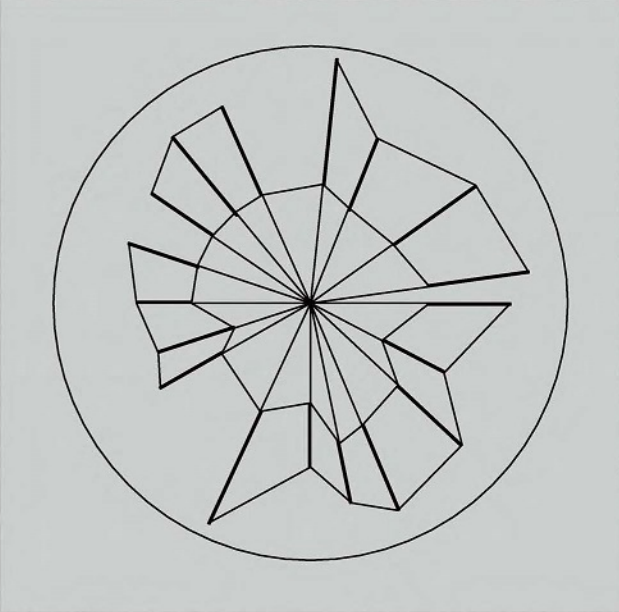


The Physical Level

物理段階



a. CD の音源ファイルを読み込む。

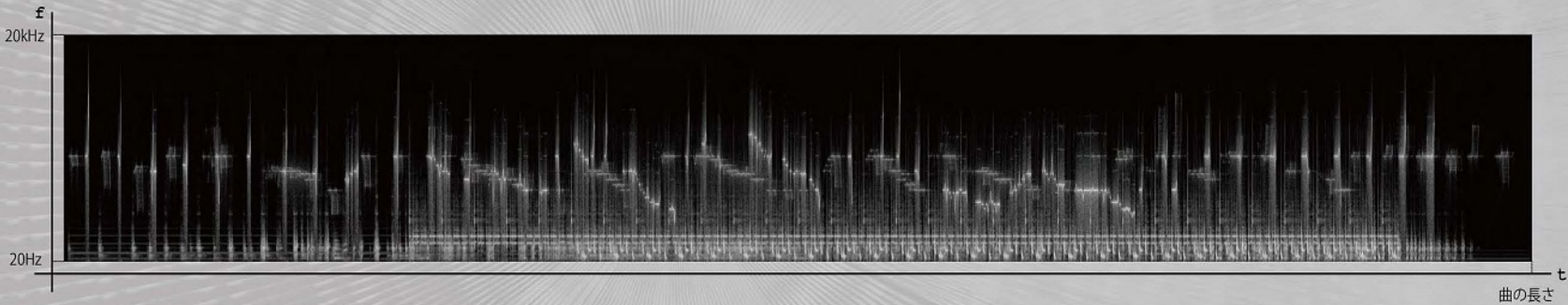


e. できた建築空間は図面やパースとして残る。

分析

The Depictive Level

描写・表現段階



b. 時間ごとの周波数応答分布 (2D spectrogram) を求めることで、描写・表現の要素を視覚化する。

The Mental Level

知能段階

解釈

c. 曲のイメージや天体の入った曲名から「円」のモチーフが浮んだため、極座標を用いて曲の時間ごとの周波数分布を円形に変形する。

空間化

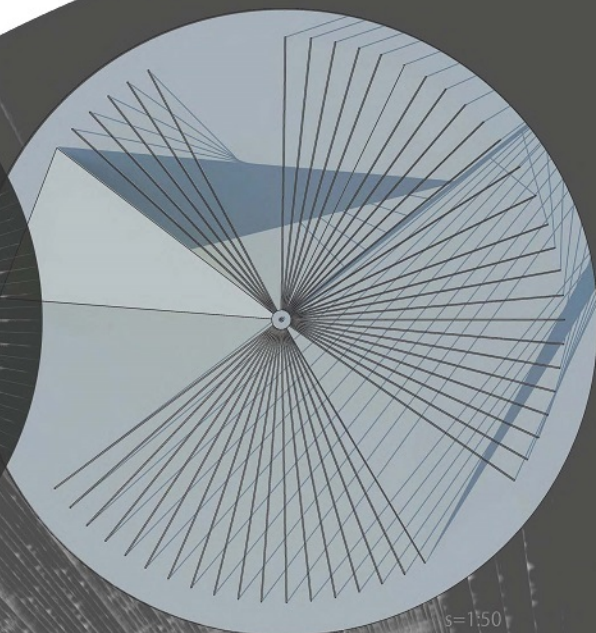
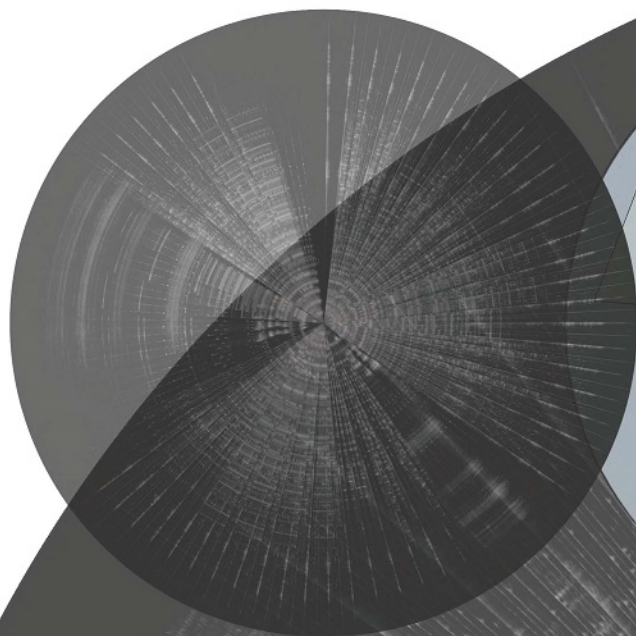
d. 円形の敷地の周りは曲の長さを $1\text{sec} = 100\text{mm}$ に換算して設定する。また、c と曲の印象をメンタルモデルとした建築空間を表現する。

水

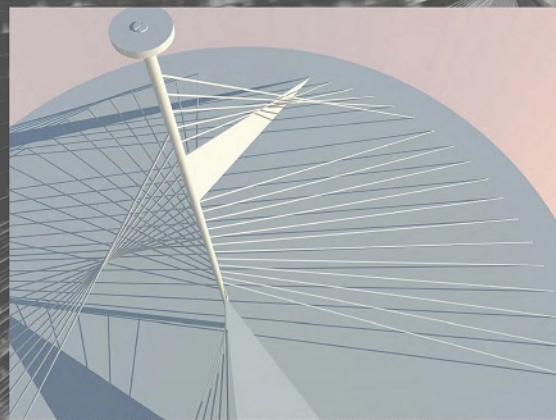
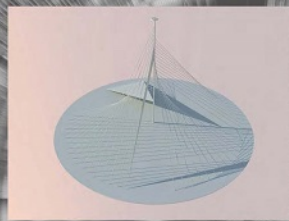
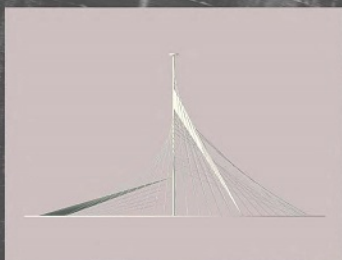
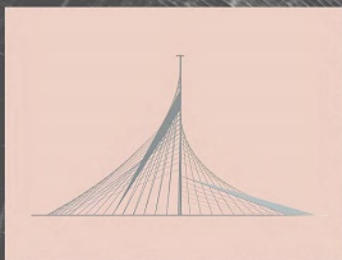
2
MERCURIC DANCE

水

水鏡～運動の語り



s=1:50

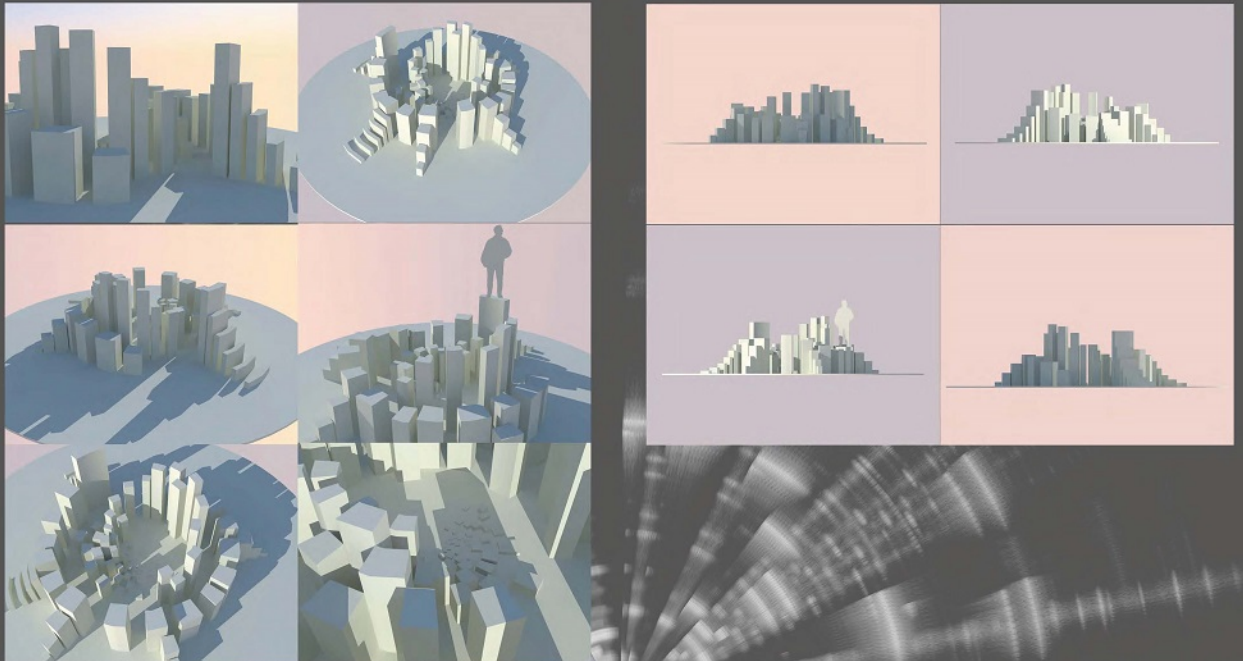
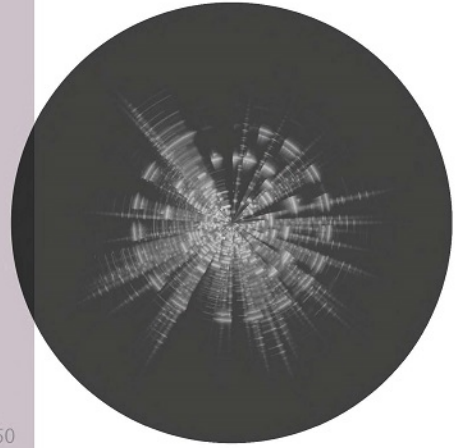
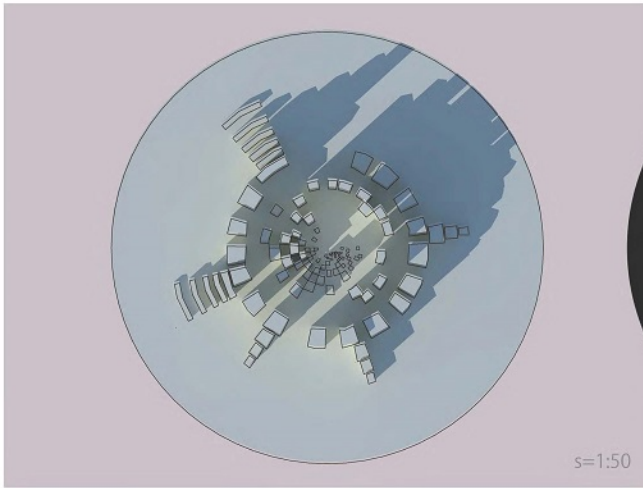


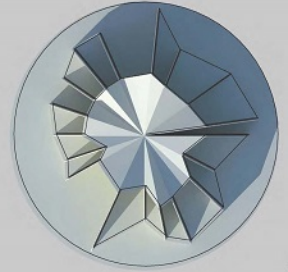
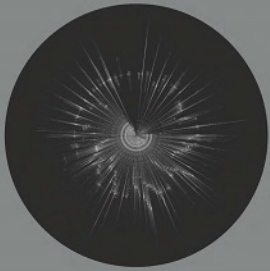


3
FORMATION OF THE VENUS



美の生成





s=1:50

